

ちよぼら

みんなで・楽しく・気軽にちよとずつのボランティア

No. 11
(2006.11)





県南ボランティアのつどい & 子どもすくすくフェスタを振り返って

大刀洗町ボランティア連絡協議会会長 四ヶ所 啓二

「愛・逢い・あい」をテーマに県南各地より2,500名の参加を頂き盛会に開催されたことに心より感謝申し上げます。

大刀洗町の特徴を出した「つどい」にと独自に実行委員会を立ち上げ検討し、アトラクションは中学校の吹奏楽部の皆さんに演奏してもらい、メインである公演は「ナレーションサークル風」と中学生による「千の風になって」の朗読で、とても好評でした。

また、七つの分科会のうち、環境ボランティア（クリーン大刀洗）・配食ボランティア（青い鳥）・ミニデイ（ふじの会）・子育て支援（めだかの楽校）・朗読ボランティア（ナレーションサークル風）の代表に事例発表をして頂き活発な意見や質問が出ていました。

また庁舎前では、子どもすくすくフェスタが開催され多くの子どもさんが大人と楽しく遊んでおられる光景は、とても心が和みました。この「つどい」を機会に一人1ボランティアができるようになったらと思っています。「つどい」を支えて下さった多くの方々に感謝申し上げます。

◆ 子どもすくすくフェスタの風景 ◆



千の風になって

いつ、どこで、誰が書いたのか分からない、英語で書かれた12行の詩。「私のお墓の前で泣かないで下さい」愛の永遠を高らかに歌い上げたこの詩から、新井満さんが一冊の絵本を出版、それが「千の風になって」です。

ナレーションサークル風は「千の風になって」を脚本化し、音楽もメンバーで構成、中学生とフジタバレエ研究所北野教室の生徒さんも加え、総勢84名での朗読公演を大刀洗ドリームセンターホールで披露しました。

朗読公演「千の風になって」に参加して

大刀洗中学校 3年 平田 智絵里

私が、この公演に参加した一番の動機は、朗読や演技をするのが好きだったからです。

人前で朗読をしたりする機会はあまりなく、学校の先生に募集の知らせを聞いた時は、本
当に「やった！」と思いました。私の言う
部分は6行程度で、このくらいなら簡単だ
ろうと思いましたが、「ナレーションサー
クル風」の人達を見ていると、こんな短い
文章にも、感情を込めれば聞き易さも、語
り手の雰囲気さえも異なって「自分は今ま
でどんなに下手だったのだろう」と思いま
した。本番が近くなると抑揚や感情だけ
なく自信をつけることも大切だとい
うことが分かりました。練習を何回もする
のは自信をつける為でもあると思
います。本番では緊張しましたが、み
んな今までで一番良い朗読が出来た
ので良かったです。また今回のよう
な機会があったら、積極的に参加し
ていこうと思います。



内容をご紹介します



人たちが、午後は7つの分科会に分かれて、熱心に討議されました。

【第3分科会】移送サービス

【第4分科会】高齢者支援

【第7分科会】障害児（者）支援

第2分科会 環境ボランティア

渡辺 しげ子



計60名弱の参加者の中で、クリーン大刀洗とアクアリング委員会の活動報告がありました。

アクアリング委員会は「クリークの清掃」を5年間続けてこられ、最初は相手にされなかった活動でしたが続ける事で理解されるようになり、

今では地域の方々のお手伝いと福大の学生の参加で活気ある活動になってきているとの事でした。クリーン大刀洗も同様に、続けて行く事が大切だと感じました。また、若い人の参加が少ない事も参加者の意見としてあげられました。

NPO法人「エコネットふくおか」が展示されていたリサイクル品の数々、その素晴らしさに感動し再利用の大切さを痛感しました。有意義な時間を過ごせました。ありがとうございます。

第5分科会 子育て支援

佐藤 豊

問題提起は黒木町の「たんぼぼくらぶ」と大刀洗町の「めだかの楽校」が行いました。

「たんぼぼくらぶ」は就学前の子供から中学校までくらいの子供を対象に、支援活動をされているようです。「めだかの楽校」は小学生の放課後の生活指導に重点を置いて活動しています。子育て支援とは「学校と家庭との間にあって、地域の人が支援し、親を含めたところの子育てを目指した活動である」と理解しました。ここに、学校・地域・家庭の三者がしっかりと手を携えていく構図が見えてきます。これからも、どうかよろしくお願い致します。





各分科会の活動発表の

県南地区の各市町村でボランティア活動を実践されている総勢600名弱の

【第1分科会】 青少年ボランティア

【第2分科会】 環境ボランティア

【第5分科会】 子育て支援

【第6分科会】 朗読ボランティア

この中から次の分科会のようにをご紹介します。

第4分科会 高齢者支援

秋吉 美知子



筑前町の「美和の会」と大刀洗町の「ふじの会」と配食「青い鳥」が活動報告をしました。「美和の会」は会員25名で施設訪問やイベントの手伝い、一人暮らしのお年寄りや身体障害者の方々の家庭を訪問しているそうです。「ふじの会」は高齢者のサロン活動のようすを発表されました。「青い鳥」は月に

2回、一人暮らしや障害者・病気の方々の希望者に真心を込めて作ったお弁当をお届けしています。私はボランティアを楽しみながら生きがいにしています。問題点としては会員が増えない事、ボランティア提供者の増大を図る事があげられました。

最後に助言者から「組織の中に入らなくても高齢者が喜びや魅力を感じてくれるボランティア活動を行ない、まわりにPRして広げて行く事が大切。」という助言をいただきました。

第6分科会 朗読ボランティア

阿部 眞由美

八女市のおはなし・ばさらか・たい（読み聞かせ、紙芝居、パネルなどの読書推進活動）と大刀洗町のナレーションサークル風が活動状況紹介をしました。午前中の「ナレ風」の朗読公演が好評で、公演に関する質問やテープ編集の方法、著作権の問題、活動費の事、会員募集の方法と、始めは静かでしたが次々に質問や意見が出始め、参加者全員が熱心に聞き入っていました。大牟田市の助言者の「これでいいと言うものはない。新しいものを求めて努力することが大切。」という言葉に励まされた、とても有意義な分科会でした。



今回の「つどい」を運営するためにご協力いただいたボランティア総数は68名でした。
うち、大刀洗町ボランティア連絡協議会44名、大刀洗中学生16名、久留米大学生2名、一般6名でした。皆さん本当にご苦労様でした。そしてありがとうございました。

がんばった中学生



さわやかに歓迎してくれた中学生



お客様を迎えるスタッフ



受付の様子



分科会の受付



ふわふわの受付・ご苦労様でした



ボランティア活動に関する情報、ご意見、
ご感想やお問い合わせは、

「大刀洗町ボランティアセンター」まで
TEL: 0942-77-4877
FAX: 0942-77-4877

抽選会の様子



編集スタッフ

スマイル



代表 戸塚 幹 栄
福村 宮 生
福村 地代 充
川端 好 江